

## 推進校における取組や工夫について

小学校動物飼育推進校〈第3期〉（平成30年度・令和元年度）が、学校担当獣医師から受けた指導・助言等の支援や、各推進校が行った取組や工夫をまとめています。

## 生活科の学習における学校担当獣医師との連携について

### 〔飼育に関する基本的な指導〕

#### ◆動物の飼育環境について

学校担当獣医師に学校の飼育状況を見ていただき、例えば次のような助言を受けた。

- 校庭が人工芝であり、敷地内に土がある場所が、児童が自由に出入りすることのできない屋上のみであるような学校においては、ウサギなどの動物をケージ飼いにするとよい。
- 鳥小屋でウサギを飼育するような場合には、掃除がしづらい床の作りになっていたり、屋根が高すぎたりするため、床の作りを改善したり、防風シートで防寒対策をしたりする必要がある。
- 獣医師からは、モルモットの飼育の際には、干し草をえさとしてたくさん与えるとよいこと、温かい環境を保つことなどを指導していただいた。
- 夏の猛暑対策として、職員室など冷房が完備されている場所でケージ飼いをするとよい。
- 飼育小屋を児童の日常の活動場所に移動したり、休み時間に動物を飼育小屋から出し、児童が動物と触れ合えるようにしたりする。
- 動物の観察や世話をする際は、アルコール消毒スプレーを常備し、衛生管理を行う。
- 動物への接し方について、動物のストレスを少なくするため、驚かさないよう静かに近付く、怖がらないようにするといったことを指導していただいた。また、動物が安心できる抱き方を指導していただいた。

#### ◆動物の健康管理について

- 動物の体重測定や糞の観察等を行い、観察日誌に継続的に記録することで健康状態を把握する。観察日誌には元気があるか、えさを食べているかといったことも観察項目とする。
- ウサギに与えるえさについて、ペレット状のものを減らし、主食を牧草（チモシー）とすることで歯が伸びることを防ぐことができる。
- 動物の体重等に合わせたえさの種類や量について指導していただいた。

### 〔児童に「生命の尊さ」を理解させる指導〕

- 動物の心音を児童に聞かせることで、動物と人との違いなどについて指導していただくことで、多くの児童が動物にも人と同じ命があることに気付いた。

### 〔継続的な飼育を行うための指導〕

- 4月から2年生が飼育を行うが、10月頃に1年生への引継ぎを行い、その後は1年生が中心となって飼育を行った。引継ぎの際に1年生に伝えることなどを指導していただいた。

### 〔効果的な連携について〕

- 獣医師との効果的な連携を行うために、打合せ時には指導計画案を作成しておき、T1・T2の役割を明確にした。

## アレルギーのある児童への対応について

- 動物アレルギーの有無について、事前に家庭へ調査を行い、アレルギーの程度や可能な活動範囲を確認した。
- 動物に接する際には、タオルを使用して動物に直接触れないようにし、換気の良い場所で動物と触れ合うよう心掛けた。動物に触れることができない児童については、えさの準備をするなどして、動物と関われるよう心掛けた。

## 週休日や長期休業中の飼育について

- 長期休業中における保護者ボランティアにより、動物を預かってもらう際には、えさや飼育環境について、獣医師からの助言を受け、以下のような対応を行った。

#### 〔希望調査〕

- ・ボランティアを行っていただける希望日時等を事前に調査する。

#### 〔実施前に伝える内容について〕

- ・えさのやり方（種類や量など） ・水のやり方（交換回数など）
- ・動物の具合が悪くなったときの連絡先

#### 〔飼育環境について〕

- ・動物が隠れることができる場所を設ける、飼育ケージの下に新聞紙を敷くなど。
- ・トイレについて ・温度管理（夏季は温度が上がらないように注意するなど）

#### 〔飼育道具について〕

- ・飼育ケージ、えさ、トイレの道具、運動させるためのサークルなどを貸し出す。

〔その他〕

- 飼育内容を忘れないようチェックシートを用意する。

## 教員への研修について

- 長期休業中に、教員、保護者を対象に、飼育動物の適切な飼育等について研修会を行った。
- 動物が持つウイルスや感染の方法、飼育動物の体調に変化があったときの対応、学校で動物を飼育する意味、学校で飼育することに適している動物などについてお話をいただいた。

## 動物が死亡したときの指導について

- 獣医師に検案をしてもらい、埋葬の処理や埋葬場所について指導していただいた。
- 飼育動物が死亡することで児童は大きなショックを受ける。獣医師と連携し、死亡の原因が老衰であることや、検案の様子や埋葬についてお話をしてもらう機会を設けることで、児童は安心したようであった。